

INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

<http://www.bcasj.or.jp/jsdb>

■会長および運営委員選挙結果.....	1
■新会長挨拶.....	2
■ホームページ立ち上げと事務局メールアドレス変更.....	3
■DGD便り.....	4
■日本発生生物学会第32回大会のお知らせ.....	5
■教官公募.....	12
■研究集会案内.....	12
■助成金、研究公募.....	17
■会員移動.....	20
■入会案内.....	22

NO.91

DECEMBER 1998

日本発生生物学会

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

東京都立大学理学系研究科生物科学

会 長：〒 300 茨城県土浦市湖北 2 丁目 5 - 10
-0032 岡田益吉 (Tel: 0298-22-7348, Fax 兼用
e-mail: flyokada @ biol. tsukuba. ac. jp
drok7 @ da2. so-net. or. jp)

D G D 編集主幹：〒 739 東広島市鏡山 1 - 3 - 1
-0046 広島大学理学部遺伝子科学専攻
嶋田 拓 (Tel: 0824-24-7446)
(Fax: 0824-24-7498)
(e-mail: dgdedit @ ipc. hiroshima-u. ac. jp)

事 務 局：〒 192 東京都八王子市南大沢 1 - 1
-0397 東京都立大学大学院理学系研究科生物科学専攻
Fax: 0426-77-2559 (生物科学事務)
e-mail: jsdb @ bcasj. or. jp
(幹 事 長) 八杉貞雄 (Tel: 0426-77-2572)
(庶務幹事) 福田公子 (Tel: 0426-77-2572)
(会計幹事) 西駕秀俊 (Tel: 0426-77-2573)

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込 5 - 16 - 9
-8622 財団法人 学会事務センター
日本発生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)

日本発生物学会への入退会，住所・所属変更，会費納入，および出版物（インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については，上記の日本学会事務センターに書面でお問い合わせ下さい。なお D G D につきましては直接，ブラックウェルサイエンス社にお願いいたします (Fax: +61-39349-3016)。

サーキュラーへの投稿募集

日本発生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年 3 回発刊されます。学会に対する提言，研究雑感，実験手法，学会見聞記，関連学会案内，書評等どのような内容でも結構ですので，是非事務局にお寄せ下さい。

日本発生生物学会第16期（1999年1月～2000年12月） 会長および運営委員選挙結果について選挙結果報告

会長選挙

第1次選挙結果（9月2日開票）

投票総数：220票

無効票：0票

有効票数の過半数を得た者がいなかったため、会則により上位3名（浅島 誠会員、竹市 雅俊会員、星 元紀会員）を候補者として第2次選挙を行なうこととした。

第2次選挙結果

投票総数：445票

無効票：1票

この結果、会則に基づき竹市 雅俊会員が会長に選出された。

運営委員選挙

投票総数：194通X14名連記＝2716票

無効：26通、理由：14名非連記

当選者（50音句、敬称略）：

相沢慎一	阿形清和	浅島 誠	井出宏之	上野直人
岡野栄之	佐藤矩行	高橋淑子	中辻憲夫	仲村春和
西田宏記	藤沢 肇	星 元紀	八杉貞雄	

次点：長浜嘉孝

なお、竹市新会長により、笹井芳樹会員が運営委員に委嘱された。

会長就任のご挨拶

京都大学大学院理学研究科 竹 市 雅 俊

この度、本学会の会長に就任させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。私は自分の学問を、伝統的な発生学から始めた人間とはいえ、若い時代にその本流から離れ、どちらかといえば細胞生物学の道を歩んだ人間です。また、最近では、神経回路の形成とか、さらにその研究に付随して、神経回路の機能にまで関心を持ち始め、ますます本来の発生学から離れる傾向にあります。そういうわけで、本学会の主流部分の外側にいる人間が、会長をさせていただくことになり、やや後ろめたい気分です。とはいえ、自分の専門分野へと訪ねられた時は、発生生物学と答えることにしていますし、また、講義では発生生物学を教えています。実際のところ、自分のバックグラウンドを語るとき、発生生物学とするのが、いちばんしっくりするのです。やや外側にいる人間が会長を務めさせていただくことのメリットの一つは、学会の様子を、客観的な目で眺めることができることでしょうか。日本の発生生物学はどうなのか、というような問題を語る時、クールな発言が可能かもしれません。

さて、世の中に数ある学会の中で、発生生物学会は、もっともカジュアルな雰囲気を持った学会だと思います。私は、この雰囲気が非常に好きで、この学会に愛着を感じる理由の一つです。これは、発生生物学が、若い人達にとってたいへん魅力ある分野であることを表しているのでしょう。ある別の分野の方が、発生に関するシンポジウムを見学され、その若々しさに驚いておられたことがあります。権威とか伝統とか形式とかやたら重んじる余り、息苦しさを感じる学会がありますが、本学会にそういう傾向がないのはとてもよいことです。欧米の生物学が進んだ理由の一つは、伝統に最大の敬意をはらいながらも、同時に、権威に捕われない自由な発想がどんどん試されることだと思います。本学会は、先端を歩むための、そのようなポテンシャルを十分有しているようです。

とはいえ、この学会は現状でたいへん結構と申しているわけではありません。かつて、私が発生学を学び始めたころ（いわゆるembryologyの終焉のころ）、それまでの日本のこの分野には、それなりに強い個性があったという感じがあります（そもそも、個性豊かな先生が多かったです）。現在の日本では、むしろそのような個性的研究は明らかに少なくなりました。若い人達の話聞いていても、常識的だなあ、という感じがすることが多いです。これは、情報量の圧倒的増加、実験手法の均質化、研究のスピード、研究評価のありかた、などによる国際的傾向で、現代が抱える文化的な問題の一つでしょう。しかし、現情勢がどうあろうと、抜きんでた研究をやらばなりません。それではどうするか、とい

うな話題については、追々、意見を述べさせていただきたいと思います。同時に、是非とも、若い方々の意見をお聞きして、また、互いの意見を交換して、この学会を盛りたてることができればよいと考えています。私の、この学会に関係する当面の重要な仕事は、2001年開催の国際発生生物学会の準備です。この会をできるだけ有意義なものにするためには、日本から報告できる研究成果を、できるだけ質の高いものにすることが大切です。それにより初めて、日本で国際会議を開く実質的な価値が生じるでしょう。「外国の有名な人」の話聞くだけの会にはしたくありません。海外の人々にとって、わざわざ日本に足を運ぶメリットがあるような、そういう会にしなければなりません。そうなれば、日本の発生生物学の国際的な地盤は、一層高まるでしょう。そのためには、勿論、皆さまのご協力が必要です。

暫くの間、会長職共々、ご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

日本発生生物学会のホームページの開設について (事務局から)

日本発生生物学会では、会員の皆様に種々の情報を早くお知らせし、学会の活動を多くの方に知っていただく目的でホームページを開設しました。URLは、<http://www.bcasj.or.jp/jsdb/>です。ぜひ一度ごらん下さい。

このホームページには、学会の紹介、歴史、規約、会長挨拶、などの他に、Blackwell社のDGDのページへのリンク、学会の大会準備委員会へのリンク、国際発生生物学会へのリンクなどがあります。また、学会事務局からの情報も適宜掲載する予定です。さらに、学会事務センター、学術情報センターへも飛ぶことができ、本学会のみならず多くの学会の情報にも触れることができます。

現在の所このホームページの立ち上げと運営は、姫路工業大学の阿形清和先生と北海道大学の栃内新先生のご努力と事務局のサポートで行っていますが、いずれは学会の中に「ホームページ管理委員会」を設置する予定です。ホームページに関する会員の皆様のご意見、ご理解、ご協力をお願いします。

日本発生生物学会のメールアドレスについて (事務局から)

従来学会事務局にメールアドレスがありましたが、今回学会事務センター内にウェブマスターを置くことになり、学会のメールアドレスとしてはそちらをご利用いただくことになりました。アドレスは jsdb@bcasj.or.jp です。事務局のアドレスもしばらく有効ですが、できるだけ前期のアドレスをご利用いただくよう、お願いいたします。

D G D 便り

D G D 編集主幹 嶋 田 拓

D G D の編集を担当して2年目が暮れようとしています。投稿論文の不足というD G D が抱える問題点は相変わらず解決の兆しが見えてきません。くどいようですが、一定の水準にある論文の投稿数が増えないと採択から出版までの時間の短縮ができず、現在ますます増えつつある発生学の国際誌に互して行くことが困難になります。幸い、Impact factor はここ数年上昇を続けていて、1995年の1.12、1996年の1.352から1997年には1.443になりました。総説の掲載が少ないという最近の状況でこのくらいですから、総説が各号に掲載され、上質の論文が多数投稿されれば、Impact factor もさらに上昇し、年8号の刊行が可能になるでしょう。会員の皆様のご投稿を期待しています。総説については執筆をすでにお引き受け下さった方はもちろん、自分の分野を総説にまとめてみたいという方もぜひご投稿下さい。

カラー印刷費の著者負担額については、第1頁105,000円、次ページ以降は頁毎に24,000円という従来の価格から、学会とBlackwell Science Asia (BSA) で一部負担することによって、現行の著者負担額は第1頁25,200円、次ページ以降は頁毎に16,000円というように低減されています。41巻1号(1999年)からは第2頁以降の頁毎のカラー印刷費は8,000円になる見込みです。国外の他誌にはカラー印刷費が無料のものもありますが、第1頁100,000円というものも多く、D G D の投稿経費はもはや高いとは言えません。

D G D のcontentsはMedlineで見ることができますが、日本発生生物学会やBSAのホームページに掲載論文のabstractを載せることも事務局で検討中で近く実現するものと思われます。これは掲載論文の引用度を高めるのに大いに役立つでしょう。

D G D の表紙もカラフルになっていますが、編集方針や表紙のデザイン等についてぜひ忌憚のないご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

日本発生生物学会第32回大会のお知らせ

日本発生生物学会第32回大会準備委員会
委員長 団 まりな

第32回大会は、1999年5月28日から30日の3日間、復興なった神戸市の甲南大学および東灘区民センターにおいて開催いたします。皆様のご参加を心からお待ちしております。

1. 期日：1999年5月28日（金）～30日（日）

会場：東灘区民センター（28日）
甲南大学（29日・30日）

3. 参加登録申込方法：

※大会参加申込・研究発表申込ともに、従来の申込方法とは大幅に異なりますので十分ご注意ください。

- (1) 本大会は大会参加申込書を使用せず、振替用紙のみによる申込といたします。発表をされない方（連名の発表もない方）は、振替用紙による申込のみとなります。
- (2) 大会参加費は前納（締切日1999年2月26日）の場合は同封の振替用紙をご使用のうえ、一般会員6,000円、学生・院生4,000円をお支払い下さい。なお、3月1日以降は当日受付と同額の一般会員7,000円、学生・院生5,000円となりますのでご注意ください。
- (3) 懇親会は大会初日の5月28日に行います。参加をご希望の方は、参加費と同様に振替用紙をご使用の上、3,000円（一律）をお支払い下さい。場合によっては当日の受付ができないこともありますので、できるだけ事前にお申込下さい。
- (4) 大会参加費等払込みの領収書は、原則として発行いたしませんのでご了承下さい。

4. 研究発表申込方法：

- (1) 申込期限は1999年2月28日（日）〔当日消印有効〕です。
- (2) 研究発表は日本発生生物学会会員で1999年度までの会費納入者に限ります。現在学会会員でない方で発表を希望される方は、学会への入会手続き（入会金納入を含む）を行って下さい。
- (3) 研究発表について大会準備委員会からのお願い(必読)

これからの大会運営を省力化するために参加・発表申込みがデータベース化されていきます。2001年の年会は、国際発生生物学会年会を兼ねることになるわけですが、2001年には、すべてホームページによって参加・発表申込みが受け付けられることになります。時代の流れといえばそれまでなのですが、いきなりホームページ化されますと、トラブル・戸惑いや対応不能になるケースが多々でてくると予測されます。そこで、会員の皆様の協力を得ながら、3年かけて、従来方式と新方式を併用しながら、少しずつステップワイズにホームページによる申込み化に移行していききたいと思います。

今年は、研究発表の要旨の投稿については、従来通りの形式を踏襲しましたが、発表申し込みの部分についてはホームページによる申込みをするようにセットアップしてみました。これにより、プログラム編成・索引作成が省力化され、プログラムが完成した段階でプログラムが日本発生生物学会のホームページに掲載されることになります。また、発表要旨については従来と同じように指定用紙に記入して郵送されたもの（発表者全員が必要）が要旨集の印刷用原稿としてオフセット印刷されますが、試験的にホームページにも投稿してもらいます（これは来年以降のための予行演習です）。ホームページにも投稿されますと、ホームページにプログラムが掲載された時に、要旨もリンクした形で閲覧可能となります。来年は、発表要旨そのものもホームページによる投稿に移行し（もちろん、ホームページに対応できない場合のバックアップ体制は取ります）、要旨集の作成も印刷屋さんとオンライン化される予定です。

最初のうちは、いろいろと戸惑うこともあるかと思いますが、慣れることも必要と思いますので、会員の方々にはご協力のほどよろしくお願いします。また、今回につきましては、ホームページにアクセスできない方・ホームページがきらいな方のために、発表申込み用として、ホームページの画面のプリントアウトしたものを同封しましたので、それに手書きにて必要事項を記入してもらい（要旨は従来と同じ指定用紙に記入したものだけあれば結構です）、要旨とともに大会準備委員会へ郵送願います。今回と次回につきましては、過度期とわりきって大会準備委員会の方で入力します。ただし、要旨は入力しませんので、ホームページで閲覧することはできません。できるだけホームページで発表申し込みをして頂くよう重ねてお願い申し上げます。

最後に、ネットワークの構成によっては、ホームページに入力できても、送信できないケースも希に考えられるとのことです。その場合は、他のネットワークから投稿するか、同封の用紙に記入したものを郵送して下さい。

《研究発表申込み手順のチェック表》

- ☐ 研究発表要旨を作成し、従来とおり演題名／発表者名／所属を記入後、要旨を指定の用紙にプリントアウト（あるいは手書き）する。

- ☐ 研究発表要旨を3部コピーする。
- ☐ 日本発生生物学会のホームページを開いて発表申し込み手続きを行う。(1999年2月15日から2月28日の期間に受け付けます)

- (1) <http://www.bcasj.or.jp/jsdb/>を入力して日本発生生物学会のホームページを立ちあげる。
 - (2) 日本発生生物学会大会案内のボタンをクリックして大会のページに移動し、さらに発表申込みのボタンをクリックして申し込みページを表示する。申込み区分は新規として登録を開始する。
 - (3) 指示に従いながら、演題名・発表者氏名・会員番号(このサーキュラーの送られてきた封筒の宛名ラベルに明記されている)・希望発表形式(口演かポスターかを選ぶ)・希望発表分野・連絡先を記入する。連絡は主にメールを使って行うのでメールアドレスのある者を連絡先とすること。
 - (4) 続いて、要旨の本文テキストをコピー&ペーストではりつける。(注: 要旨集の印刷には、あくまでもハードコピーが印刷屋にまわります。ここに投稿したものは、ホームページ上で要旨を閲覧可能にするためのものです。ただし、ハードコピーでは図や写真も掲載可能ですが、ホームページでの投稿では、図や写真は今のところ対象外なので省略して下さい。また、外字等も文字バケする可能性が高いので、文字バケしそうな文字の使用は避けて下さい。)
 - (5) 記入を確認した後、送信ボタンを押しますと、受付番号が表示され、登録は完了します。(受付番号は必ずメモして下さい。修正の時に必要となります。)
- (注: 送信後に変更あるいは記入ミスに気がついた場合は、申込み区分を修正とし、受付番号を記入した後、正しいものを記入し、再度送信して下さい。その際、連絡欄に理由を記入して下さい。)

- ☐ 演題申込み受領書と研究発表連絡表に必要事項を記入し、50円切手を貼る。
- ☐ 研究発表要旨1部・要旨コピー3部・演題申込受領書と研究発表の連絡書を確認した上で封筒に入れ簡易書留便で下記の大会準備委員会へ1999年2月28日までに郵送する(当日消印有効)。

(注: ホームページにアクセスできない方、きらいな方は同封の大会発表申込み票に必要事項を記入して郵送して下さい。申込み票を受け取ったことで発表受付とします。また、ホームページの画面はバージョンアップのために予告なく変更されている場合がありますが、前もってご了承下さい)

- (4) 発表要旨は縮小写真印刷しますので、できるだけタイプかワープロを使用してご記入下さい。図表も印刷できます。
- (5) **口演**: 発表時間は15分(発表12分、討論3分)の予定です。なお、本大会では **OHP**のみ使用いたします(スライドプロジェクターは用意いたしませんのでご注意下さ

い)。

ポスター発表：パネルサイズは横90cm×縦180cmです。形式は特に定めませんが上部にタイトル、発表者名・所属を掲示して下さい。押しピン等は準備委員会で用意します。

- (6) 研究発表申込書送付先 〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西 内
日本発生生物学会第32回大会準備委員会
TEL(06)873-2301 FAX(06)873-2300
E-mail :o-conf@bcasj.or.jp

5. ワークショップ募集：

2日目の晩にワークショップのコーナーを設けます。内容、形式とも自由にお考えになって、「責任者の氏名」と「ワークショップの題名」「ワークショップ内容の要旨（形式は自由）」「参加予定人数」「使用機器」を2月28日まで（当日消印有効）に前記大会準備委員会までお申し込み下さい。なお、機器の種類によっては、用意できない場合もありえますので、特別なものをご使用になる場合は、あらかじめ準備委員会までご相談下さい。また、会場の設営は各グループでお願いします。会員の皆さんの積極的な参加をお待ちします。

6. 初日（5月28日・金）のスケジュールについて：

○公開シンポジウム：

午前中から16：30まで単一会場での公開シンポジウム『発生の刻む時：細胞から進化まで』を予定しています。海外からの招待講演者（増井禎夫、Simon Conway Morris, Olivier Pourquie）を交えて、現代発生学の成果を幅広く紹介します。本学会の会員だけでなく、関西一円の院生や一般研究者にも、公開する予定です。

○総会：

16：30から約1時間、シンポジウムに引き続き、同じ会場で行います。

○懇親会：

甲南大学・平生記念セミナーハウスに場所を移して、18：00から20：00まで懇親会を行います。

7. 大会期間中の宿泊等の案内：

サーキュラーに綴じ込みの「宿泊・JR・昼食お弁当のご案内」をご利用下さい。

第32回日本発生生物学会

(会場：甲南大学 阪急電鉄神戸線岡本駅)

「宿泊・JR・昼食お弁当のご案内」

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度「第32回日本発生生物学会」が甲南大学（兵庫県東灘区）にて盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

つきましては、私共(株)日本旅行が本学会大会準備委員会よりご下命いただき、皆様のご宿泊・JR・ご昼食お弁当のお世話を代行させていただくこととなりました。学会にご参加の方々にご満足いただけますよう十分な配慮をさせていただく所存でございます。

是非ともご利用くださいますことを心よりお待ち申し上げます。

敬具

1. 宿泊のご案内

◎宿泊取り扱い期間：平成11年5月27日（木）～30日（日）

◎ホテル名及びお一人様料金（お部屋代、サービス料込、諸税・食事代別）

クラス別申し込み番号	ホテル名	部屋タイプ利用料金
OC-S-①	新阪急ホテル	シングル 11,500円
OE-S-②	大阪東急イン	シングル 8,000円
OE-S-③	ホテルコンソルト	シングル 7,500円
OE-S-④	チサンホテル新大阪	シングル 6,000円
OE-S-⑤	法華クラブ大阪	シングル 5,500円
KC-S-⑥	ホテルプラザ神戸	シングル 11,500円
KE-S-⑦	神戸三宮ユニオンホテル	シングル 8,500円
KE-S-⑧	マックスホテル神戸	シングル 8,000円
KE-S-⑨	神戸タワーサイドホテル	シングル 7,000円

《注》O・・・大阪 K・・・神戸 C・・・シティホテルクラス E・・・エコノミーホテルクラス
S・・・シングルルーム

ツインルームご利用・ラグジュアリーホテルクラスご利用のお客様は、お問い合わせください。

2. JR 新幹線切符のご案内

東京(新横浜)～新大阪に限り取り扱いいたします。

ただし、ひかり・こだま利用の大会特別料金(のぞみは適用できません。)

東京(新横浜)～新大阪	学会特別料金	通常料金
エコノミー席	12,070 円	(13,750 円)
グリーン席	14,590 円	(18,900 円)

ご希望のお客様は日付・希望発車時刻などご記入の上お申し込みください。

※変更は1回できますが、取り消し・払い戻しができないチケットです。

3. 昼食弁当のご案内

会場内外にも食事施設はありますが、収容人数に限りがあり、時間内にご利用できない場合も生じますので、あらかじめお弁当の予約受付をいたします。是非ともお申し込みください。

1 個 1,000 円(お茶付き)・・・毎日違ったメニューをご用意いたします。

4. お申し込み後の「変更・取り消し」のご案内

お申し込み後の「変更・取り消し」につきましては、必ず弊社「日本旅行学会デスク」宛に FAX または文書によりご連絡をお願いいたします。

取り消し料	14 日前から 7 日前	5 日前から 2 日前	前 日	当 日
宿 泊	500 円	料金の 30 %	料金の 50 %	料金の 100 %
お弁当	無 料	無 料	無 料	料金の 100 %

取り消し・変更のご連絡締め切り時間は、

ご宿泊・・・上記指定日の 17:00 まで

お弁当・・・ご利用日の前日の 16:00 までとさせていただきます。

5. お申し込み先

(株)日本旅行 医学・学会学会デスク 第 32 回日本発生物学会係

〒541-0051 大阪市中央区備後町 3-4-1 山口玄ビル 3 階

Tel (06) 6204-1710 FAX (06) 6204-1890 担当: 大槻・中谷宛

申し込み締め切り日・・・平成 11 年 5 月 14 日 (金)

6. お申し込み方法及びお支払い方法

お申し込み用紙に必要事項をご記入の上、FAX にてお申し込みください。予約回答と請求書を同封いたしますので、請求書振り込み口座宛にお振り込みください。

プログラム

1. はじめに 相澤 慎一
2. プラナリアにみる体造りの基本
姫路工業大学理学部生命科学科 助教授 阿形 清和
3. はばたく虫たちー昆虫の付属肢の起源
国立遺伝学研究所系統生物研究センター 助教授 林 茂生
4. 無脊椎動物が脊椎動物になったとき
京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 助 手 和田 洋
5. 左右非対称性の獲得
徳島大学工学部生物工学科 教 授 野地 澄晴
6. 背腹軸の形成と神経誘導
京都大学再生医科学研究所 教 授 笹井 芳樹
7. 脳の部域化のグラウンドプラン
東京大学大学院医学系研究科 講 師 嶋村 健児
8. おわりに 相澤 慎一

参加費（講演要旨集含む）

会 員（大学、官公庁、賛助会員）	： 6,000円
非会員	： 8,000円
学 生	： 3,000円

定 員 2 0 0 名

参加申込方法 1.氏名 2.勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号を明記の上、郵便またはFAXで下記宛お申し込み下さい。参加費は申込後に住友銀行千里中央支店普通預金No.128278 財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込下さい。なお振込の際、振込者名の前にM3とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先 （財）千里ライフサイエンス振興財団

セミナー係

〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL.(06)873-2001, FAX.(06)873-2002

担当：田中 晃

コールドスプリングハーバー・ラボラトリ ツメガエル・ コース参加募集のご案内

1. 主な内容：

- (i) 成体の世話と胚の取扱
- (ii) 発生ステージと形態
- (iii) ホールマウント in situ ハイブリダイゼーションと免疫組織化学
- (iv) マイクロインジェクション
(lineage tracers, DNA constructs, mRNA and antisense oligonucleotides)
- (v) 胚のマイクロマニピュレーション
(including explant and transplantation assays)
- (vi) トランスジェニック胚の作製

2. 期間：1999年 4 月10日ー 4 月20日

3. 申込受付：1999年 1 月15日

4. 申し込み方法、経費等について：

<http://www.cshl.org/meetings/> を参照下さい。

"Early Development of *Xenopus laevis*" at the Cold Spring Harbor Laboratory

Paul Krieg, University of Texas, Austin

Sally A. Moody, George Washington University Medical Center

April 10- 20, 1999

This course will provide extensive laboratory exposure to the biology, manipulation and use of embryos from the frog, *Xenopus laevis*. This course is suited both for Investigators who have had no experience with *Xenopus*, as well as those who work with *Xenopus* and wish to learn new techniques. All applicants should have a current training in molecular biology and some knowledge of developmental biology. The course consists of intensive laboratory sessions, supplemented by daily lectures and demonstrations from experts in both experimental and molecular embryology. Areas to be covered include: (i) care of adults and embryo isolation; (ii) stages of embryonic development and anatomy; (iii) whole mount in situ hybridization and immunocytochemistry; (iv) microinjection of eggs and oocytes, including lineage tracers, DNA constructs, mRNA and antisense oligonucleotides; (v) micromanipulation of embryos, including explant and transplantation assays;

(vi) preparation of transgenic embryos.

Guest lecturers and laboratory assistants for 1999 include:

Jan Christian, Oregon Health Science University

Igor Dawid, National Institutes of Health

Robert Grainger, University of Virginia

Janet Heasman, University of Minnesota

Raymond Keller, University of Virginia

Kristy Kenyon, The George Washington University

Mary Lou King, University of Miami

Michael Klymkowsky, University of Colorado

Kristen Kroll, Harvard Medical School

Aaron Zorn, Wellcome/CRC Institute, Cambridge

Application Deadline is January 15, 1999.

For more information contact The Cold Spring Harbor Laboratory Meetings

Office at 516-367-8346 or visit their home page at

<http://www.cshl.org/meetings/>

国際シンポジウム

「WIRING MOLECULES IN BRAIN DEVELOPMENT AND PLASTICITY」

日時：1999年3月29日（月）、30日（火）

両日とも午前9時より午後6時まで

場所：理化学研究所 大河内記念ホール

〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1 Tel 048-462-1111（代表）

共催：HFSP team "Development of Cortical and Limbic Circuits"

Jurgen Bolz (University Jena, Germany), Yasuyoshi Arimatsu (Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences, Japan), Pat Levitt (University of Pittsburgh, USA), Yumiko Hatanaka (RIKEN, Brain Science Institute, Japan)

理化学研究所 脳科学総合研究センター

予定演者（A B C 順）：

Yasuyoshi Arimatsu (Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences, Japan)

Colin Barnstable (Yale University, USA)

Jurgen Bolz (University Jena, Germany)

Friedrich Bonhoeffer (Max-Planck Institute, Tübingen, Germany)

Michael Frotscher (University of Freiburg, Germany)

Hajime Fujisawa (Nagoya University, Japan)

Yumiko Hatanaka (RIKEN, Brain Science Institute, Japan)

Rüdiger Klein (EMBL, Germany)

Pat Levitt (University of Pittsburgh, USA)

Kensaku Mori (RIKEN, Brain Science Institute, Japan)

Fujio Murakami (Osaka University, Japan)

Harukazu Nakamura (Tohoku University, Japan)

Masaharu Noda (National Institute for Basic Biology, Japan)

Mu-ming Poo (University of California, San Diego, USA)

Kenji Shimamura (University of Tokyo, Japan)

Constantino Sotello (INSERM U106, France)

Masatoshi Takeichi (Kyoto University, Japan)

Nobuhiko Yamamoto (Osaka University, Japan)

参加方法：参加費無料。詳細は下記にお問い合わせ下さい。

連絡先：

〒194-8511 東京都町田市南大谷 1-1 三菱化学生命科学研究所 有松靖温

Tel (042)724-6225 FAX(042)724-6312 e-mail yasu@libra.ls.m-kagaku.co.jp

〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1 理化学研究所 脳科学総合研究センター

畠中由美子 e-mail yumiko@nibb.ac.jp

公益信託成茂動物科学振興基金助成者

公益信託 成茂動物科学振興基金運営委員会

委員長 平 本 幸 男

本年度の公益信託 成茂動物科学振興基金の助成者が下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

助成者氏名	所属機関	助成金額
1. 深 町 博 史	東 京 大 学	40万円
2. 畠 山 正 統	神 戸 大 学	40万円
3. 和 田 洋	京 都 大 学	70万円
4. 稲 葉 一 男	東 北 大 学	50万円
5. 小 林 牧 人	東 京 大 学	50万円
6. 出 口 竜 作	宮城教育大学	50万円
7. 岩 松 鷹 司	愛知教育大学	50万円
7 件		350万円

山田科学振興財団 1999年度研究援助募集

援助の趣旨および内容

1. 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究日の援助を致します。実用指向研究は援助の対象としません。
2. 援助額は1件当たり100～500万円、総額4,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦及び本財団関係者からの個人推薦のなかから選考致します。
3. 援助金を給与に充てることは出来ませんが、特に財団が指定した場合を除き、他の用途は自由です。
4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の年度の計2年間とします。

推薦者 日本発生生物学会
推薦件数 2 件以内
推薦締切期日 1999 年 2 月末日（財団の締切の 1 ヶ月前）
選考結果の通知 1999 年 7 月末までに文書にて通知します。
連絡先 財団法人 山田科学振興財団（Yamada Science Foundation）
〒544 大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号
電話 06 (757) 3311 （代表）

応募する方は山田科学振興財団に連絡して推薦書を取得し、必要事項を記入後、締切期日までに事務局まで郵送してください。

平成11年度宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの宇宙における組立が本年11月から開始され、本格的な宇宙環境を利用する時代を迎えようとしております。宇宙環境では、微小重力や高真空等地上では得がたい環境の下で、実験を実施することができます。

我が国は、国際宇宙ステーション計画に独自の実験棟（JEM: Japanese Experiment Module）をもって参加しており、今後、このような宇宙環境を利用する機会が飛躍的に増大することになります。

一方、地上での広範な分野の研究を宇宙環境を利用する実験に結びつけ、更には具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまで地上における関連研究の蓄積が必要です。

本制度は、このように JEM を中心とした宇宙環境を利用する準備段階として、幅広い分野の研究者に研究機会を提供し、宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

公募制度の概要

- 大学、国公立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。
- 公募対象研究分野（以下の7分野）

微小重力科学、生物科学、バイオメディカル、宇宙医学、宇宙科学、地球科学、宇宙利用技術開発

●研究費

- ・フェーズⅠ研究（フェーズⅠ研究(A)：3千万円以下/年、フェーズⅠ研究(B)：6百万円以下/年、フェーズⅠ研究(B)萌芽的研究：150万円/年）

宇宙環境の利用を指向した研究テーマについて、宇宙環境利用の研究の有効性や研究手法、実験手段等について、理論研究、調査検討や地上実験を行うもの。

- ・フェーズⅡ研究（1千万円程度～1億円以下/年）

宇宙環境を利用した研究の意義及び有効性が認められ、研究手法や宇宙環境での実験に対する実験概念が明確に定義された研究テーマについて、JEM利用テーマ募集への応募を目標に実験の計画作成及び実験装置等の要求仕様の設定を伴う本格的な宇宙環境利用に向けた準備段階にある研究を対象とします。

- 財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によって構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。

●研究形態

研究形態としては、委託研究（大学、企業）、共同研究（国立研究所）、招聘研究の形態をとります。

●研究期間

1年～3年

●実験施設、試験施設の提供

研究の必要に応じて調整の上、落下塔、航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。

●スケジュール

- ・応募締め切り：平成11年1月29日（金）（消印有効）
- ・研究開始：平成11年7月～

注記：上記事項については、11月下旬以降に詳細な応募要領等を下記ホームページに掲載する予定です。

●問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム 公募研究推進部 募集担当

電話：03-3459-1653 FAX：03-5470-8426

URL：http://www.homepage.co.jp/jsforum

e-mail：koubo@jsforum.or.jp

<会員資格変更>

学生→正会員

中川 慎一郎	㈱日本新薬東部創薬研究所分子生物学〒305-0003 研究部生物研究1課	つくば市桜3-14-1
中川 真一	Dept. of Anatomy, Univ. of Cambridge	Dowing St., Cambridge, CB2 3DY, U. K.
村田 卓也	熊本大学医学部遺伝発生医学研究施設 〒860-0811 形態発生部門	熊本市本荘2-2-1
国内→海外		
佐藤 陽子		
中川 真一	Dept. of Anatomy, Univ. of Cambridge	Dowing St., Cambridge, CB2 3DY, U. K.
大倉 正也	The Ben May Inst. for Cancer Res., Ctr. for Molecular Oncology, The Univ. of Chicago	924 East 57th St., JFK-R316, Chicago, IL 60637-5419, U.S.A.

海外→国内

金井(東) 正美	㈱東京都臨床医学総合研究所超微形態 〒113-8613 研究部門	文京区本駒込3-18-22
----------	-------------------------------------	---------------

<所属機関変更>

唐沢 美香	千葉大学大学院医学研究科独立専攻高 〒260-8670 次機能系発生医学講座免疫発生学	千葉市中央区亥鼻1-8-1
学水野 伸彦	大阪大学細胞生体工学センター形態形 〒565-0871 成部門	吹田市山田丘1-3
田中 幹子	c/o Prof. Cheryll Tickle, MSI/WTB Complex, Univ. of Dundee	Dundee, DD1 5EH, U. K.
学阿部 幸一郎	東京工業大学生命理工学部生命理学科 〒226-8501 細胞構築学講座石川冬木研究室	横浜市緑区長津田町4259
野呂 知加子	理化学研究所脳科学総合研究センター 〒351-0198 ブレインウェイ研究グループ	和光市広沢2-1
松居 靖久	大阪府立母子保健総合医療センター研 〒594-1101 究所病因形態部門	和泉市室堂町840
村田 卓也	熊本大学医学部遺伝発生医学研究施設 〒860-0811 形態発生部門	熊本市本荘2-2-1
国吉 久人	科学技術振興事業団山本行動進化プロ 〒194-8511 ジェクト	町田市南大谷11 三菱化学生命科学研究室内
学吉水 朋美	大阪府立母子保健総合医療センター研 〒594-1101 究所病因形態部門	和泉市室堂町840
学杉山 紀之	大阪府立母子保健総合医療センター研 〒594-1101 究所病因形態部門	和泉市室堂町840
平田 篤由	マルホ㈱中央研究所	〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町1 サイエンスセ ンタービル5号館
結城 惇	(有)ハブ	〒306-0101 茨城県猿島郡三和町尾崎2637-4

<所在地変更>

渡辺 憲二	姫路工業大学理学部生命科学科	〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町金出地1475-2
-------	----------------	------------------------------

<退会者>

大崎 晃三	杉浦 資子	金津 美都	沢井 昭司	中尾 啓子	千葉 晶	李 相鎬
JURA Czeslaw J.	HEDRICK Jerry Leo	LEE Jae Hyun				

会 員 異 動

<新入会員>

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ、②材料)
吉岡 秀郎	大阪大学歯学部第一口腔 外科	〒565-0871 吹田市山田丘1-8	①ラット唾液腺発生におけるMMPs (メタロプロテアーゼ) の影響 ②rat embryonic sublingual gland
山中庸次郎	大阪大学医学部バイオ腫 瘍病理	〒565-0871 吹田市山田丘2-2	①細胞極性と体軸形成 ②ゼブラフィッシュ、マウス
木村 博	滋賀医科大学放射線基礎 医学講座	〒520-2192 大津市瀬田月輪町	②ヒドラ、線虫、ホヤ、メダカ、マ ウス、ヒト、培養細胞
学加藤 彰	基礎生物学研究所感覚情 報処理研究部門	〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38	①神経発生学 ②ニワトリ

日本発生生物学会への入会について

同封の「申し込み票」および「会員カード」に必要事項を御記入の上、日本学会事務センター宛お届け下さい。

ご参考までに学会事業の内容をお知らせ致します。

a) 学会誌の刊行

Development, Growth & Differentiation

年1巻、6冊刊行

b) 年1回、研究発表のほか、招待講演、シンポジウムなどがあり、また、会則による総会が開かれます。大会講演要旨集が予め全会員に配布されます。

c) インフォメーション・サーキュラー

大会の予告、予算案、決算、運営委員会の報告など、学会の事業の連絡やその他会員の消息、関連学会の動きなどを掲載したサーキュラーが年3～4回配布されます

d) 和文単行書の編集

学会内の委員会の企画により、単行書を編集し刊行しています。会員は（刊行後一定期間に限り）割引価格で購入できます。既刊分は「発生における制御」「初期発生における細胞」「エイジングの生物学」「動物の器官形成」「受精の生物学」「変態の生物学」「発生における分子識別」です。

なお、会費は前納制です。前年度末までに、次年度の会費をご納入下さい。

会費、発送物、入退会、住所変更に関する問い合わせ先は

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センター C21

(財)日本学会事務センター 日本発生生物学会 係

TEL 03-5814-5810

学生の方は、学生証のコピーを添付して、お申込み下さい。

なお学生資格は、学部学生、大学院生、及び大学、研究所等で、学生証あるいはそれに準ずる証明書を有する学生、研究生等です。

----- 切 り 取 り 線 -----

日本発生生物学会入会申し込み票

(年 月 日)

氏名	氏名ローマ字綴り (フル・ネーム)
研究主題 (もしくは関心のあるテーマ)	所属機関名とその所在地 (電話 内線) (〒)
研究材料名 (和名・学名など)	(ファックス) e メールアドレス 上記以外に連絡を希望される場合の連絡場所 (自宅の場合は自と記入のこと) (〒)
会への要望	

(I) 会員カードの記入要領

1. 会員カードはすべてコンピューターに記憶させますので楷書ではっきり記入して下さい。また指定箇所には、「フリガナ」または「ローマ字」で記入して下さい。
2. 氏名は点線の左側に姓、右側に名を記入して下さい。
3. 郵便番号は所定の欄に記入して下さい。
4. 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入して下さい。
5. 学歴は最終卒業学校名、卒業年（西暦）を記入して下さい。
修士・博士課程在学中の方は研究科、課程まで、学部在学中の方は在学学校名、在学学年を記入して下さい。
6. 性別・専門・連絡先（＝会誌等送付先）・会員種別については、該当するものを○でかこんで下さい。
7. 本会の会計年度は、1月～12月です。入会年度を所定の欄に必ず記入して下さい。
8. ＊印の欄には記入しないで下さい。

(II) 会費の送金方法について

1. 会員カードを返送していただいてから1か月以内に請求書を発行しますので最寄りの郵便局または銀行よりお振り込み下さい。

(注) 現住所、所属機関等、会員カードの記載事項に変更があった場合はただちに、書面でご連絡下さい。

入会申込書は必ずご返送下さい。

財団法人 日本学会事務センター

日本発生物学会会員係

〒133-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

学会センターC21

T E L 03-5814-5810

広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学，医学，薬学，農学をはじめ分子生物学，細胞生物学，遺伝学など，さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり，国内外に約1,300人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は，日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し，国内に約1,200部，国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下，本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等，是非ご協力頂きますようお願い致します。

広 告 料			
D G D 本誌	1 頁	年 6 回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年 3 回	90,000円
	半 頁	〃	45,000円

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申し込み先：日本発生生物学会事務局（八杉貞雄）

〒192-0397 八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科生物学教室

TEL 0426-77-2572(直通) FAX 0426-77-2559

e-mail : jsdb@bcasj. or. jp

----- 切 り 取 り 線 -----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

☐ D G D 本誌	1 頁
☐ 〃	半 頁
☐ サーキュラー	1 頁
☐ 〃	半 頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

㊟

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会
会長 岡田 益吉

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生学者を混じえて約1,300名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願ひ申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局(八杉貞雄)

〒192-0397 八王子市南大沢1-1

東京都立大学大学院理学研究科生物学教室

TEL 0426-77-2572(直通) FAX 0426-77-2559

-----切-----り-----取-----り-----線-----

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(_____ 口 _____ 円)

住 所

会 社 名

印

担当者名
電話番号

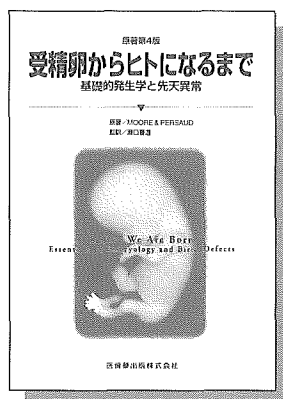
●カラーの図と写真を多用して最新知見で全面改訂！

Before We Are Born : Essentials of Embryology and Birth Defects

受精卵からヒトになるまで

基礎的発生学と先天異常

原著第4版



最新刊

Moore & Persaud 原著／瀬口春道 (高知医科 大学教授) 監訳

本書改訂版の主な特徴

- ヒトの発生を、正常発生と異常発生についての臨床上的基礎的知識と根本的概念について、図と写真を多用して懇切に解説。
- 各章ごとに胚子ならびに胎児が胎齢ごとにどのようにでき上がっていくかを理論的に解説し、臨床に役立つ先天異常の原因や胎児の出生前管理についても最新知見をつけ加えた。
- 発生過程の動向変化を理解しやすくするために、新しい図をはじめ、超音波像を収録し、発生途上のヒト胚子の走査電子顕微鏡写真も収載した。
- 各章ごとに「要約」や「よく聞かれる質問」の頁を設け、学生、臨床家が知りたい知見についての最新知識で解説している。
- 医学生が限られた講義時間内でも、難しい内容が理解しやすいように、本文にはカラーの図版や写真を多用し、効果的な学習ができるテキストとして編集されている。

●B5判 380頁 定価(本体5,000円+税) 送料450円 ISBN4-263-20985-0

内容目次

序論 ヒトの発生段階 発生学的重要性 歴史的要点 記載用語 ヒトの生殖 生殖器官 生殖形成 生殖 女性の生殖周期 生殖子の輸送 生殖子の生存力 ヒトの発生第1週 ヒトの発生の始まり 接合子の卵割 ヒトの発生第2週 2層性胚盤の形成 着床完了と初期胚発生 胞胚の着床部位 ヒトの発生第3週 3層性胚子の形成 原腸形成：胚葉の形成 神経胚形成 尿膜 体節の発生 胚内体腔の発生 原始心臓脈管系の発生 絨毛膜絨毛の発生 ヒトの発生第4週から第8週まで 組織、器官、体型の発生 発生の段階 胚子の折りたたみ 胚葉からできる構造物 胚子発生の調節 第4週から第8週の要点 ヒトの発生第9週から第38週まで 胎児期 胎児期の推定 胎児期の要点 胎児の発育に影響する因子 胎盤と胎児被膜 胎盤 妊娠中の子宮の成長 分娩(出産) 分娩後の胎盤、臍帯、胎児被膜 卵黄嚢 尿膜 双胎と多胎妊娠 ヒト先天異常とその原因 遺伝因子に起因する奇形 環境因子による奇形 多因子遺伝に起因する奇形 体腔、初期腸間膜および横隔膜 胚子の体腔 横隔膜の発達 鰓性器官 鰓弓(咽頭弓) 咽頭嚢 鰓溝(咽頭溝) 鰓膜(咽頭膜) 甲状腺の発生 舌の発生 唾液腺の発生 顔面の発生 鼻腔の発生 口蓋の発生 呼吸器系 咽頭の発生 気管の発生 気管支と肺の発生 消化器系 前腸 中腸 後腸 泌尿生殖器系 泌尿器系 腎上体 生殖器系 心臓血管系 初期の心臓の発生 原始循環 心臓の発生の完成 大動脈弓 胎児循環 出生後の循環 筋骨格系 骨および軟骨の発生 関節の発生 脊柱の発生 肋骨の発生 頭蓋骨の発生 体肢の発生 筋系 神経系 脊髄の発生 脳の発生 末梢神経系 眼と耳 眼 耳 皮膚、皮膚付属器および歯 皮膚 毛 皮脂腺 汗腺 爪 乳腺 歯 よく聞かれる質問に対する解答

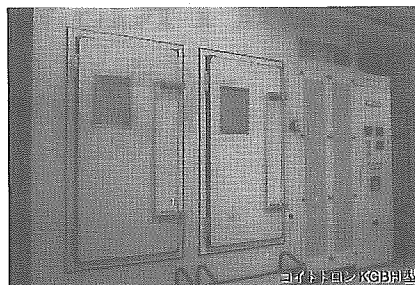


医歯薬出版株式会社／〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL.03-5395-7610 FAX.03-5395-7611

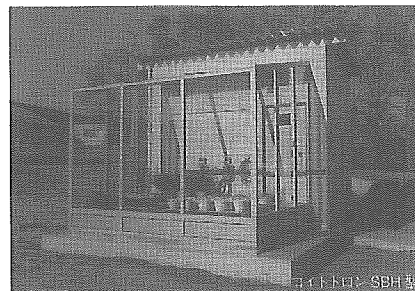
●郵送によるご注文は、医歯薬出版発行図書通信販売代行店の(株)東京メール・サービス ☎03-5976-0631 でうけたまわっております。

バイオ関連の試験・研究を バックアップ

小糸工業のバイオハザード対応グロースキャビネットは、周囲環境の影響を受けずに、圧力コントロールシステムで実験室内を陰圧に保持します。また、コンパクトで高性能なフィルターユニットとの組み合わせで、実験対象物への空気流による外界からの悪影響を遮断、簡単操作をプラスして、高精度な温・湿度を再現します。



コイトトロン KGBH 型



コイトトロン SBH 型

バイオハザード対応グロースキャビネット **SBH/KGBH** シリーズ
コイトトロン

小糸工業株式会社 東京本部 〒108 東京都港区高輪 3 丁目 5 番 23 号 (日生高輪台ビル) ☎03(3443)9846 FAX.03(3443)6570
札幌 011(722)5211 東北 022(225)7501 大阪 06(263)6371 九州 092(431)0838 筑波 0298(51)2311 沖縄 098(861)1805

アフリカ ツメガエル

澄んだ空気、汚染のない川、沼の水等、恵まれた自然環境の下で育った良質のアフリカツメガエル。

使用目的：遺伝子組換、動物クローン研究、細胞操作、インターフェロン培養、教材として生理・解剖実験に御使用下さい。

(当養殖場では、水道水を一切使用しておりません。)



— お 問 い 合 わ せ は —

養殖 販売 **北日本生物教材**

代表 三 上 正 義

フリーダイヤル セノパス は クローン

0120-084896

(午前発注：即日発送)(月～金曜日：午前9時～午後5時)

〒036-15

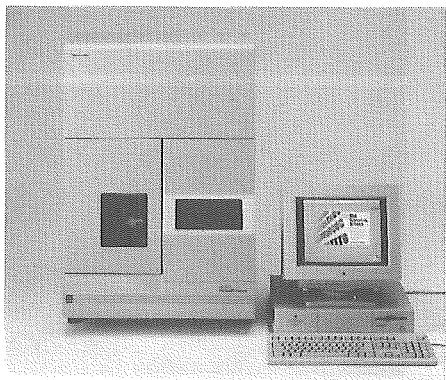
青森県中郡相馬村大字坂市沢113

TEL 0172 (84) 3509

FAX 0172 (84) 3510

ABI PRISM™ 310 Genetic Analyzer

パフォーマンス UP!



DNAシーケンシング& DNAフラグメント解析

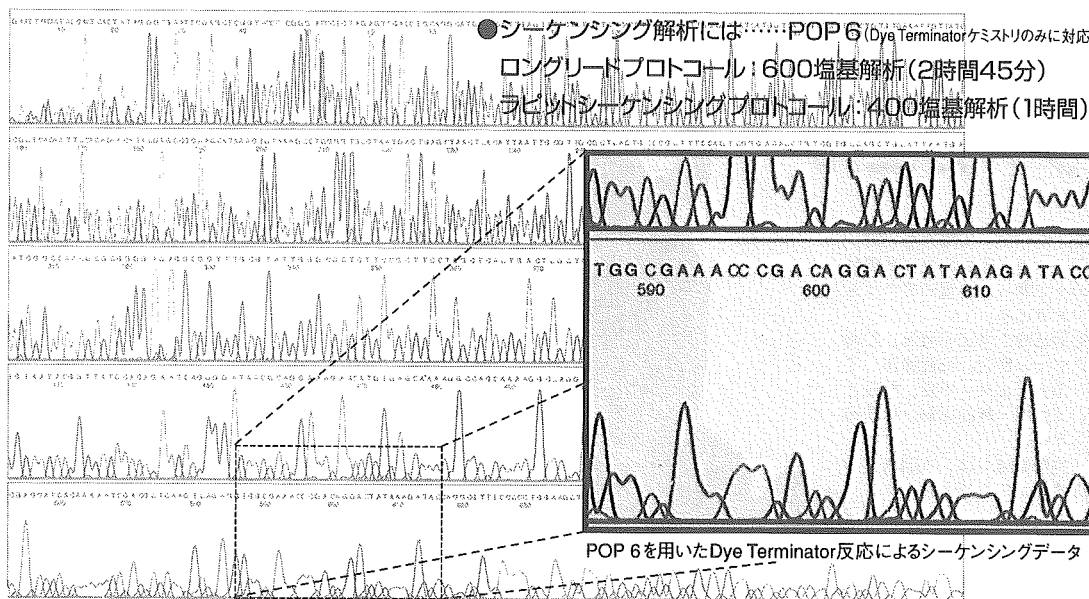
ABI PRISM™ 310ジェネティックアナライザは、多色蛍光標識技術とキャピラリー電気泳動技術を統合した、サイズ決定・定量などの遺伝子解析および核酸の配列解析を行える、初めての自動システムです。デビュー以来、多くの施設に導入され、ご好評を頂いています。このたび、新しいポリマー "Performance Optimized Polymer (POP)" を開発し、より良好な結果を手にして頂けるようになりました。



新ポリマー POP 4 & POP 6 登場

●GeneScan™ 変性条件系フラグメント解析 (STR, micro-satellite, AFLP, differential display等) には……POP 4

●シーケンシング解析には……POP 6 (Dye Terminatorケミストリのみに対応)
ロングリードプロトコール: 600塩基解析 (2時間45分)
ラビットシーケンシングプロトコール: 400塩基解析 (1時間)



PE Applied Biosystems

株式会社 パーキン エルマー ジャパン
アプライド バイオシステムズ 事業部

本 社 ● 〒279 千葉県浦安市美浜1-9-2
名古屋 ● 〒464 愛知県名古屋市千種区池下町2-15
大 阪 ● 〒564 大阪府吹田市豊津町5-3
福 岡 ● 〒810 福岡県福岡市中央区赤坂1-16-10

☎ 047 (380) 8500 / FAX 047 (380) 8505
☎ 052 (764) 1201 / FAX 052 (764) 1202
☎ 06 (389) 1201 / FAX 06 (389) 1206
☎ 092 (771) 2755 / FAX 092 (771) 2756

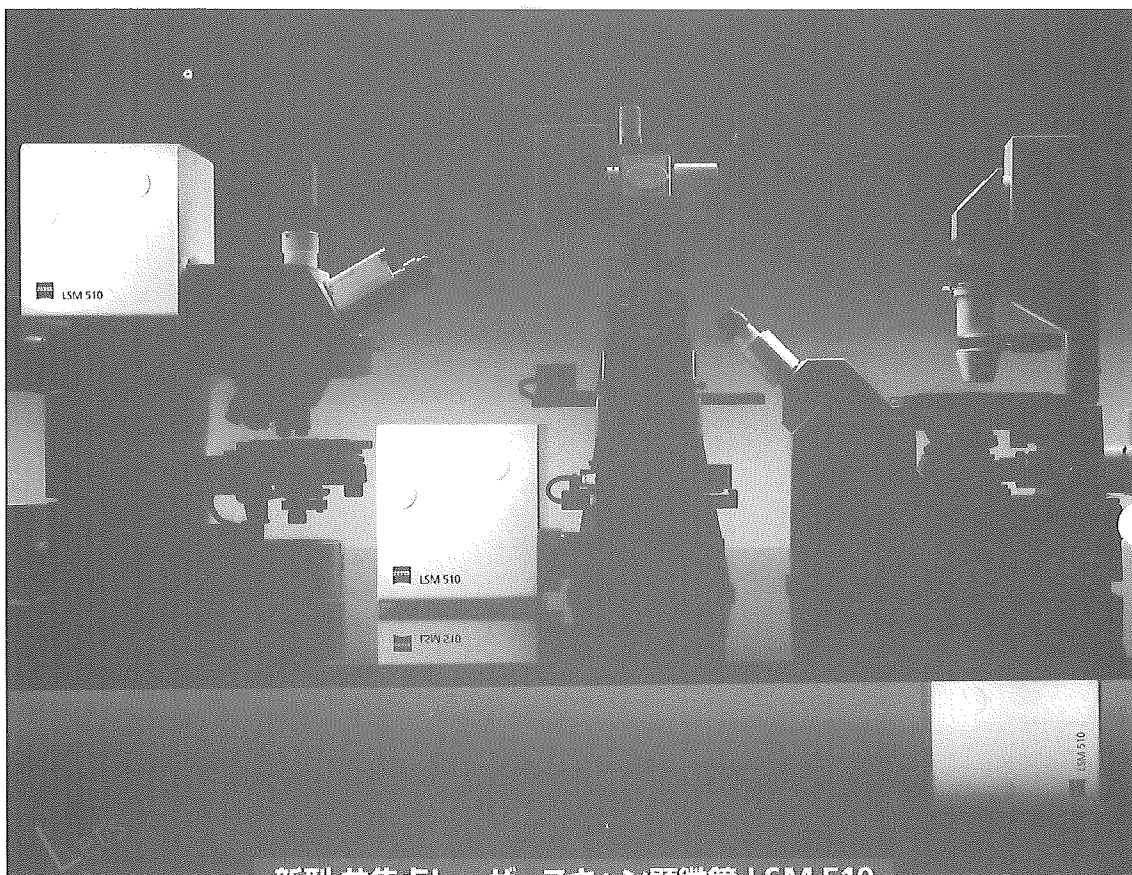
URL address <http://www.perkin-elmer.com/ab>

🏠📅📌 Memo 📌📅🏠

Memo

[illegible]

Memo



See
More

新型 共焦点レーザースキャン顕微鏡 LSM 510

コンパクトそして多機能

一点の妥協もなく

あなたが評価するのは柔軟な対応力ですか？それとも最高のテクノロジーでしょうか？

LSM510は、その全てを備えています。

革新的な最高の技術、極めて扱いやすいソフトウェアがもたらす抜群の操作性、コンパクトで交換容易なスキャンニングモジュールなど。徹底した妥協を許さない物作りの精神が、ここにあります。

斬新なスキャンニング手法

極めてユニークなスキャンニング法を採用、スキャンニングエリアの設定も自由自在。従って、思いのままの不定形のスキャンが可能です。全ての3D表示、各種測定法と相まって、試料情報を余すところなく表現します。

かつて、顕微鏡に抱かれていた様々な期待が、今ここに実現します。

新しい品質基準の画像

蛍光の4ch、同時取得、各ピンホールはコンピュータコントロールされ、2,048×2,048ピクセルの高精細スキャン、4×12bitの高分解能をはじめとして、積算、オーバサンプリング、フォトンカウンティングなど、LSM510の諸機能は、全て研究者への奉仕にあります。



ドイツ、ツァイスグループ

カールツァイス株式会社 顕微鏡部

〒160-0003 東京都新宿区本塩町22番地

☎03-3355-0332 Fax.03-3358-7554

大阪☎06-282-4322 名古屋☎052-777-1411

福岡☎092-713-7821 仙台☎022-224-5621